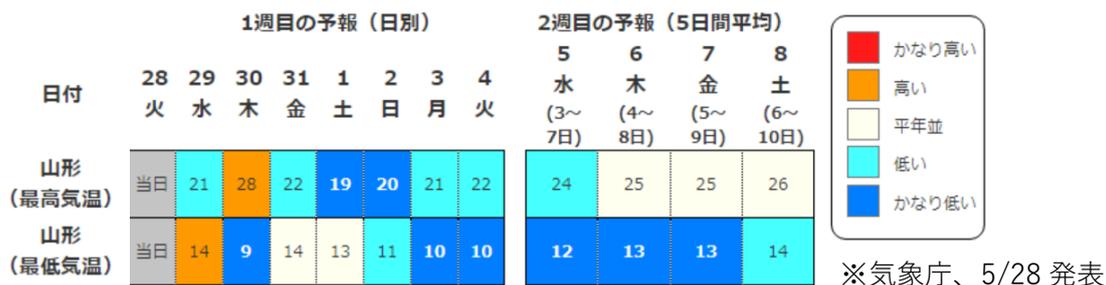


稲作だより 第5号 初期管理編

令和6年5月30日

やまがた温暖化対応米づくり日本一運動最上地域本部
(最上総合支庁農業技術普及課) ☎0233-29-1333

今後2週間は、最高・最低気温が平年より低い日が多い予報です。
また、今年は少雪や少雨の影響で用水量が例年より少ない地域が見られます。
意識的な浅水管理により、分けつ促進と効率的な用水利用に努めましょう。



活着後は浅水管理が基本

活着後(移植後1週間後頃からは、浅水管理(水深2~3cm)と日中止水により、水温と地温を上昇させ、分けつを促進しましょう。低温強風時のみ、深水管理(水深4~5cm)により稲体を保護します。

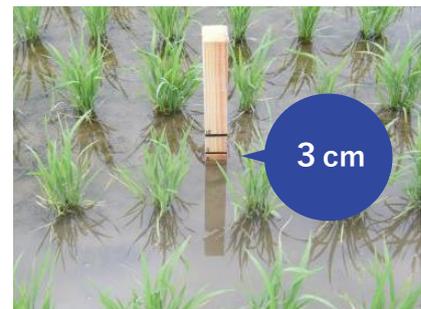


写真1 浅水管理

ワキを見越して計画的に水交換を

水田のワキが強まると水稻の生育が停滞しやすくなります。用水の状況に留意しながら、計画的に水交換や田干しを実施し、ワキによる生育停滞を予防しましょう。

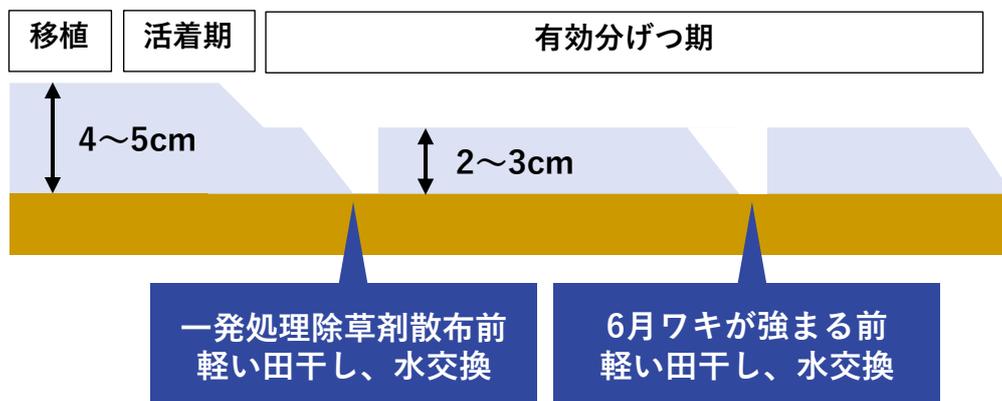


図1 理想的な水管理のイメージ

除草剤散布は遅れずに

移植後に高温で経過している場合、雑草生育が早まりやすいため、除草剤の散布適期を逃さないよう注意が必要です。

散布時は必ず剤型に対応した水深を確保するとともに、**周辺圃場にドリフトしないよう風速・風向に留意**しましょう。**散布後7日間は止水し、田面が露出しないよう**管理します。

取置き苗は早めに処分

近年、6月上旬には取置き苗でいもち病の発生が確認されています。

地域でのいもち病の蔓延を防ぐために、不要な取置き苗は**6月10日を目安に、なるべく早くに撤去**しましょう。

【ご案内】 水稻スタートダッシュ技術研修会

【日 時】 令和6年6月14日（金）午後1時30分から

【場 所】 戸沢村岩清水地内 「雪若丸」圃場（下の地図参照）

【対 象】 最上地域の水稲生産者、関係機関等

【内容とねらい】

最上地域において水稻の品質・収量を安定させるには、初期茎数を確保することが重要です。そこで、移植後にスタートダッシュをかけるための技術（水管理や肥培管理技術）について、現地の「雪若丸」栽培圃場を会場として研修を行います。

【参加報告】

6月10日（月）までに、最上普及課（0233-29-1333）に電話いただくか、右のQRコード（Google フォーム）から直接参加報告ください。

